

あるアナウンサーの日常生活

テレビのモーニングショーのキャスターやアナウンサーの日常生活は興味あるところだ。

例えば、月々金曜の午前8時からスタートのフジテレビ「とくダネ」の小倉智昭キャスターの相棒を務める笠井伸輔アナウンサーの場合。先日、会食の折にその生活の一端を垣間見ることができた。



笠井アナはフジテレビの社員アナウンサー。彼は毎朝2時半に起床。練馬区千早の自宅から車で局入り。午前8時からの生放送に備える。こうした早起きの生活が12年も続いているので、食事の前に「大変失礼ながら、途中で居眠りするかも知れないので、お断りしておきます」と、普通ではまずない会話をスタート。

冗談と思いきや、午後7時から始まったデイナーで、同8時すぎには、饒舌(じょうぜつ)だった笠井アナがプツンと無口になる。と、コックリ舟をこぎだしたのには少々驚か

された。予告通の仮眠状態の笠井アナ。10分もするとムックリ起きだし、またはしを使い、あのさわやかな笑顔で饒舌になるから大したもの。大の焼酎党だ。

笠井アナは職場結婚。夫人もアナウンサーだった。現在は、別の部署で共働き。2人には高2の長男を頭に3人の男子がいる。

人気アナを父親に持つ子どもたちはどういう感情を持つのか気になるところ。聞いてみると、確かに子どもたちは反抗心を抱いたりするそうだ。そこで笠井アナはPTAや運動会など学校行事には積極的に通い、頻繁に学校に顔を出した。保護者や息子の友人と交わることで、普通の父親であることに徹して、特別な父親ではないことを示したという。明日は運動会と言っていた。

そうすること、周囲も打ち解け、息子たちも普通の父親の子ともであるという共通意識を抱くようになったという。

仕事の出来栄などについては、同じアナウンサー同士、批判し合うことはないそうだが、本当の善しあしの意見を述べてくれるのは家族だけ。その点は大いにありがたいと述懐する笠井アナだった。